

# チェルノブイリ事故から学ぶ

旧ソ連の3ヶ国で実施された

## 各種緩和対策の削減係数

農畜産物に対する対策	削減係数 (処理前/処理後)	
	$^{137}\text{Cs}$	$^{90}\text{Sr}$
通常の耕耘(初年度)	2.5—4	
表層埋没耕耘 <sup>*1</sup>	8—16	
石灰施用	1.5—3.0	1.5—2.6
化学肥料 <sup>*2</sup> の施用	1.5—3.0	0.8—2.0
有機質肥料の施用	1.5—2.0	1.2—1.5
抜本的改良【植生除去, 耕耘, 石灰施用, 施肥および再播種】		
実施1回目	1.5—9.0	1.5—3.5
その後の継続実施	2.0—3.0	1.5—2.0
表層改良【耕耘, 施肥および播種】		
実施1回目	2.0—3.0	2.0—2.5
その後の継続実施	1.5—2.0	1.5—2.0
飼料作物種の変更	3—9	
屠殺前1ヶ月間のクリーン飼料給餌	2—4	効果なし
セシウム結合剤プルシアンブルーの投与	3—5	効果なし

<sup>\*1</sup> Skim and burial ploughing 5-45cmの土層の順位を変えず, 0-5cmの土層を45cm下に埋没させる耕耘方法。

<sup>\*2</sup>  $^{137}\text{Cs}$  の根からの吸収を最大限に低減する無機質の最適比は, N: P: K= 1: 1.5: 2

表4 旧ソ連の3ヶ国で実施された各種緩和対策と削減係数  
食品総合研究所HP等から作成(参考文献1)-6))